



Via Latina 22

2026 年 10 月 358 号

総本部よりのお知らせ－マリア会

内 容

喜びの“はい”：東アフリカ地区での初誓願式	1
韓国地区での終生誓願式	3
メリバ管区 50 周年記念祭	4
総長として信徒修道者が就任する可能性を検討する委員会	5
総長評議員会がネミでの黙想で 3 年目を始めます	6
シャミナード国際神学校（2026－2027）	7
信徒マリアニスト共同体の第 9 回国際会議	7
MLC 新しいが国際チームの選出	8
ピレネーを越えてルルドに至る兄弟的巡礼の旅	9
福者ガッツ神父の足跡をたどる	11
全世界の行政単位と共同体が総会の考えをどう実践しているかに関する他の一瞥	12
42 回世界マリアニスト祈りの日	12
発 行 物	13
ファステイーノ	13

喜びの“はい”：東アフリカ地区での初誓願式

2026 年 8 月 1 日、マリア会東アフリカ地区は 4 名の若者が自分の召命の道程で決意と嬉しい一歩を踏み出したことで喜びに満たされました。サイモン・キナラ土、スタンスラス・ルハンガ土、ダニエル・アヤコ土、そしてクリストファー・スウィラ土がケニア、リムルで

のミサ祭儀の中、初誓願を宣立しました。

マリアニスト家族のメンバー、両親、親戚、友人たち、そしてマリア会員同僚に見守られて、4名は清貧、貞潔、従順の誓願を宣立し、キリストとマリア会の福音宣教に誠心誠意身を捧げる決意を示しました。この式典は、彼らの召命のお恵みと、この地区にとって新たな生命と活力という希望の印に感謝する意味深い機会でした。

スティーブン・ワンヨイケ・ムブル神父はその説教の中で、すべての召命は神のイニシアティブで始まり、神の恵みで支えられているという根本的な真理を心に留めるよう強調しました。スティーブン神父は、彼らの決意は神の個人的呼びかけへの感謝の応えであると同時に、“私は主のものです”という自分たちの神への帰属を公に宣言することである、ということを通して新しい誓願宣立者に思い起こさせました。スティーブン神父は、彼らがこの召命を祈りの生活、継続養成、深い兄弟愛、そして寛大な奉仕を通して育てるよう励ましました。



左より：マリア会員のシミオン・モラチャ士、スタンス・ルハンガ士、ダニエル・アヤコ士、クリストファー・スウィラ士

初期のキリスト者の共同体生活を振り返りながら、スティーブン神父はマリアニスト召命は決して孤立して生きるのではないと強調しました。それは共同体の中で、分かち合う生活、相互の助けと赦し合い、そして使命に対する共通の覚悟を通して育まれます。これら大切な価値観が本当に生きられるとき、マリアニスト共同体はキリストの現存の見えるしるし、および福音へ信頼出来る証しとなる、とスティーブン神父は指摘しました。

当日の福音であるカナの婚宴は、際立ってマリアニスト的な視点の中にこの召命を位置付けました。他者が必要とするものに常に気を配っておられるマリアは、“あの人があなた方に言うことは何でも行いなさい”との言葉で召使たちをその子イエスへと導きます。スティーブン神父は新しい誓願者がこの教えを自分たちの生涯に渡る導きとするように、すなわち、注意深くキリストに耳を傾け、全面的に彼に信頼し、そしてキリストの福音宣教のために寛大に準備のできた者として留まるようにと要請しました。スティーブン神父は、彼らの誓願は単なる犠牲や制約ではなく、より大きな自由、より深い応答可能性、そして神と神の民へ

全身全霊を挙げての献身性であると彼らに思い起こさせました。

これら兄弟たちがその修道誓願生活の歩みをスタートするにあたり、私たちは彼らを私たちの母であり、最初の弟子であるマリアに委ねます。マリアが信仰、謙遜、応答可能性、そして宣教的熱意において彼らを養成し続けてくださいますように、そうすれば彼らは、その生活と奉仕を通して、他の人々をキリストへと導き、キリストを知らせ、愛させる助けとなるでしょう。

韓国地区での終生誓願式

2026年9月12日、マリアのみ名の祭日に、韓国地区はコヤン市、チュギョドンのマリアニストセンターでジョン・グンウ・シム士の終身誓願式を執り行いました。

ジョン士はアメリカ管区での修練期の中にマリアニスト修道生活の基盤を築きました。彼は修練院長クリス・ウィットマン神父、副修練院長ダン・ケルソ士、前管区霊生部長ティム・ケニー神父、そしてアメリカ管区の兄弟たちの支えと導きを得て自分の召命を育みました。7月に彼はトム・レッドモンド士の指導で、セントルイスで終生誓願宣立を準備するため30日間の黙想を行いました。

終生誓願式のミサは韓国地区長ドミニク・パーク師によって司式されました。マリアニスト司祭とジョン士の友人司祭たち12名が共同司式を行いました。ソウルのMLCのピラール合唱隊の素晴らしい聖歌がこの式典の喜びに花を添えました。



ジョン士の家族、親類、友人たち、そしてマリアニスト家族のメンバー、約200名が共に祈り、彼の終生誓願を祝うため集まりました。多くの人が、病苦にもかかわらず車椅子で息子の誓願式に出席した彼の父親の姿に心打たれました。

マリアニスト家族の他の枝の代表者たちも出席していましたが、そこにはFMIの管区長、

ソウルとインチョンの両 MLC 会長、アメリカ管区からティム・ケニー師が出席してお祝いの言葉を送りました。FMI の総長スザンナ・キムからのお祝いのメッセージが読み上げられました。

この終生誓願式は多くの人たちの献身と奉仕のお陰で執り行うことができました。韓国地区は、典礼を調整したボスコ・シン神父；ユーチューブでミサを生配信するための技術支援を行ったジョセフ・チョイ士；この式典の準備と調整で手助けされたソウル MLC のメンバーに対して心から感謝を申し上げます。

誓願式に先立つ 30 日間のマリアニスト家族の祈りに支えられこの式典は、出席者全員で分かち合う兄弟愛の時を持って終了しました。全員は、終生誓願を宣立した新しい終生誓願者の賜物を深く神に感謝する喜びの心を持って帰路につきました。

メリバ管区 50 周年記念祭

2026 年 8 月 18 日、メリバ管区は創設 50 周年記念を祝いました。2026 年 8 月 15 日、土曜日、管区は感謝のミサと、管区の生活と歴史のこの大きな節目を記念する祝賀会を開きました。マリア会アメリカ管区から管区長エド・ヴァイオレット士と副管区長ボブ・ジョーンズ師もこの式典に出席していました。この特別な機会に、家族、友人たち、そして協力者たち 500 名以上のメンバーがマリアニストたちに加わりました。



メリバ管区長ジョセフ・ベリッジ士がゲストを心から歓迎し、管区創立から 50 年に渡り彼らの多くの支援と存在に対して管区として感謝を表明しました。彼は、過去の神の祝福に思いをはせ、将来への希望について考察しましたが、それは、記念祭というのは記憶し、物語り、喜ぶためにあるからです。

ロックビルセンター教区の教区長、ジョン・バレス司教がミサの主司式者でした。補佐司教、アンドリュー司教と幾人かの教区司祭(その多くがこの管区の二つの高校の卒業生)が、ミサを捧げるために管区の司祭たちに加わりました。

信徒修道者が総長として就任する可能性を検討する委員会

昨年、総長評議員会は、総長は司祭であるべき、との私たちの『生活の規則』と教会法の規定について検討する特別委員会を設置しました。2022年5月18日の教皇フランシスコの *Rescriptum ex audientia Sanctissimi* は、教皇庁立司祭修道会の総長として奉仕する信徒修道者の可能性を開きました。第36回総会（No 78）にて委任されたように、総長評議員会はこの可能性がマリア会にとって適切かどうか検討するよう要請されていました。

この委員会はマイケル・マッカワード士（ME）、マヌエル・コルテス師（ES）、そしてエリック・オティエンデ士（EA）で構成されています。この委員会の働きは、総長に信徒修道者を選ぶ可能性が私たちのカリスマ的アイデンティティに合致するかどうかを問います。問題は複雑であり、個人的な好き嫌いを越えています。それは創立者のビジョン、マリア会の歴史、そして、特に第二バチカン公会議以降の、権限に関する教会の理解拡大に関わるものです。



左より：ジェローム・バラキエマ士（SM）、エリック・オティエンデ士（SM）、マイケル・マッカワード士（SM）、マヌエル・コルテス神父（SM）、デニス・パウティスタ士（SM）、アンドレ・ジョゼフ・フェティス神父（SM）

最初の段階では、マリアニストのカリスマと伝統、教会法上の問題、そして時のしるしを検証しました。第二段階の間には、修道会内外の経験豊かな人々の書面でのコメントが求められました。9月16日、水曜日に、委員会はその進捗を審議した最終段階を計画するために、総長評議員会との会議を持ちました。これら最終段階には、1月のシンポジウムと、2027年7月の総指導者会議の前に行われるマリア会全体の参加（意見聴取？）が含まれます。

この日はテラスでのホームメイドピザにて終了しました。一人のイタリア人マリアニストがしばしば、「全ての詩編は神の栄光で終わる」と言うのと同じようにです。私たちが、祈りと、受け取った賜物への細心な注意と忠実さを持ってこの重要な識別を続行できますよう。

総長評議員会、ネミでの黙想で3年目をスタート

総長評議委員会は、2026年9月7日～10日、祈り、考察、計画の年次黙想のため、ネミのAd Gentesセンターに集まりました。今、6年任期の3年目をスタートするに当たり、総長評議員会はマリア会が直面する現在の動向と課題を考察し、そしてこの一年への優先事項を決めました。

また評議員会メンバーは指導部に求められるものを個人的に分かち合いました。彼らは、各々が身体の健康、霊的に満たされた状態、そして健全な人間関係を保ちながら、どの様に自分の責任を果たすよう努力しているかを話し合いました。総長評議員の役割には多くの責任と頻繁な国際的訪問が含まれるので、このバランスは特に重要です。彼らの率直な会話は、彼らがどの様にお互いに支え合えるか、そしてどのような新たな組織が国際的修道会に彼らがより効果的に奉仕する助けとなるかを検討するのに役立ちました。

木曜日の夜、評議員会は晩課の間、2024年の第36回総会での就任式に初めて行われた決意表明を更新しました。

この年次の会合は、評議員会に個人的、兄弟愛的、そして霊的にお互いが結びつく機会を提供しています。またこれは彼らが一緒に仕事をする方法について率直な話し合いをする余地を作ります。このような時間は全ての指導部チームにとって重要です。多くのマリア会行政単位の評議員会は既にこのような会合を行っており、そして他の評議員会は、自分たちの生活の分かち合い、リーダーシップ、そして奉仕を強化するために、このような実践を考えたいと望んでいるかもしれません。



一歩ずつ!ネミ湖の近くを歩いていると、ジェローム・バラキエマ士、パブロ・ランボー神父、アンドレ・ジョゼフ・フェティス神父、デニス・パウティスタ士が、湖の火口から登る急な階段で自撮りをしました。この登攀は総長評議員会としての3年目の良いイメージを提供しました：これから多くの課題が残っていますが、一緒に一歩一歩踏み出すのです

シャミナード国際神学校（2026-2027）

シャミナード国際神学校共同体は2026-2027新学期をその霊的ルーツへの意味深い旅で迎えました。共同体は、福者ギョーム・ジョゼフ・シャミナードの書簡に関する9月2日から5日までの4日間コースを計画しました。エンリケ・アギレラ師が9月2日～5日のコースを指導しました。このコースの後、神学校共同体は7日間の年次黙想のためヴェルバニア・パランサに移動して、第一学期の学業に戻る前の準備の最終段階に入りました。

今年、神学校共同体には、7か国から13名の会員が集まりましたが、彼らはマリアニスト・カリスマの国際的特徴への生きた証しとなっています。神学校共同体の中での生活は、ローマ教皇庁立大学の専門色の強い要請と、私たちマリアニスト修道生活の有する兄弟愛の現実とのバランスをとっています。



神学校共同体のメンバー ヴェルバニア・パランザでの年次黙想会の終わりに
左から：(前) エノック・ピエール (アイチ、ES)、ネレオ・ラミレス (メキシコ、US)、
ラヤッパ・ピラヴェンディラン (IN)、エマニュエル・サオバ (マラウイ、EA)
左から：(後方) ジェリン・J・バナンタナム (IN)、ニコラス・アソグバ (TO)、
アントニー・オウイノ (ケニア、EA)、副校長、エルヴェ・ダグボ (IV)、
パトリック・バタカ (TO)、ロメオ・アンバ (IV)、アンリ・バラグ (TO)、
校長、マイケル・オティエノ (ケニア、EA)、フアン・パブロ・エスピノザ (メキシコ、US)

第9回信徒マリアニスト共同体の国際会議

2026年8月17日から22日にかけて、第9回信徒マリアニスト共同体の国際会議のため全世界の信徒マリアニスト共同体メンバーがコロンビア、ボゴタに集まりました。祈り、考察、対話、親睦、そして識別の6日間は、将来を見据えながら国際信徒マリアニスト共同体のもつ豊かさと多様性を祝う日々となりました。

テーマは：「マリアとの契約においてイエスに呼ばれて」でした。日毎に、2025年行われた「信徒マリアニスト共同体メンバーへの調査」、すなわち、私たちの個人的信仰体験、私たちの共同体体験、私たちの地域的・国内的マリアニスト家族体験、カリスマ家族である私たちの体験、私たちの若者たちとの体験、の一区分が宛てられました。そのような状況にお

いて、会期の日々は、調査結果を考察し、説明・発表に耳を傾け、そしてダイナミックな活動に参加することで構成されましたが、このような活動において、参加者はアイディアを交換し互い学び合うことが出来ました。

この会合は、北アメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、そしてアジアに広がる信徒マリアニスト共同体の多様性と一体性の両方を明らかにしました。ボゴタのマリアニスト宣教活動への訪問は、文化と地理の相違にも拘わらず、分かち合う宣教活動がどのようにマリアニスト家族を結び付けるかをはっきり示していました。また参加者たちは、FMI シスターズザンナ・キム、SM アンドレ・ジョゼフ・フェティス師、そして AM マリア・エライナ・レボジェドからの考察を聞きました。



参加者たちはボゴタのジバキラにある“塩の教会”
(Catedral de Sal de Zipaquirá) の外に

取り上げられた公式の活動には、「MLC 国際組織定款」改定の承認、改定後の最初の組織と管理マニュアルの承認、そして新しい国際チームの選出が含まれています。

一つの考察がこの一週間の雰囲気象徴しています：「マリアニスト・カリスマが命です」参加者たちは、神の呼びかけに耳を傾け、共同体を強化し、喫緊の必要に応え、そしてマリアニスト・カリスマを今日の生きた現実にするようチャレンジを受けて、帰途につきました。将来に向けての優先事項には、青年たちの参加、コミュニケーションと情報の透明性、真の協働、養成、霊的成長、そして霊的同伴が含まれます。

MLC 新しい国際チームの選出

コロンビアのボゴタで8月17～22日に行われた第9回 MLC 国際会議で、代議員たちは MLC 国際組織の新しい国際部チームを選出しました。

新しい国際チームは次のメンバーで構成されています：

- マット・ダン (USA) — 議長
- ホセ・フリアン・マトス・オーファント (USA) — 北アメリカ、アイルランド、オーストラリア
- リリアム・バジェ・デ・ガラゴリ (Peru) — ラテンアメリカ
- メルセデス「レレス」ケロ・モリーナ (Spain) — ヨーロッパ
- 平田 潔 (Japan) — アジア
- エルヴィス・オモンディ・オウエヤ (Kenya) — アフリカ

この MLC 国際会議はその奉仕のための指導チームから退任するメンバーに感謝を表明しました：ボリス・ジャンバンコ（議長）、メルセデス・デ・ラ・クアドラ（ヨーロッパ）、ナルシス・アツェ（アフリカ）、マット・ダンは前には北アメリカ、アイルランド、オーストラリア地域担当者でした。



左から(後方)：ホセ・フリアン・マトス・オーファント、マット・ダン、平田潔、メルセデス「レレス」ケロ・モリーナ、アンドレ・ジョゼフ・フェティス神父
左から(前方)：シスターズザンナ・キム、リリアム・バジェ・デ・ガラゴリ
欠席：エルヴィス・オモンディ・オウエヤ

2025 年に行われた MLC 会員による調査結果と、この集会の間になされた議論に基づいて、新しいチームのために生じてきた優先順位には次の点があります：それらは、若年層への働きかけと彼らの参加、よりよいコミュニケーションと情報の透明性、真の協働、養成のための共通の土台、霊的成長と霊的同伴などを含みます。

ピレネーを越えてルルドに至る兄弟的巡礼の旅

2026 年 7 月 28 日から 8 月 1 日にかけて、多様な背景をもつ 17 名のマリアニスト修道者が、スペインとフランスの間のピレネー山脈を越えて最終目的地ルルドに向かう巡礼をしました。全体で、スペインから 6 名、フランスから 6 名、オーストリアから 2 名、そしてローマのマリアニスト国際神学校から 3 名と一緒に巡礼の旅に出ました。単なるハイキングを越えて、この旅は巡礼者たちに祈り、友愛、そして分かち合いの体験をさせてくれました。巡礼路に沿って歩く頑張りやと休憩のときに、この巡礼者たちはお互いによりよく知り合うようになり、創造（自然）の美しさを観想し、そして自分たちの霊的な歩みを新たにしてくれる体験を一緒にしました。



サビナニゴからピレネー山脈の高地へ

巡礼者たちは7月28日夜、スペイン、サビニャニゴの最初のキャンプ地に着きました。この最初の区間は、ピレネーの雄大な景色を歩いて巡るのに要した数日間の始まりでした。この山歩きは兄弟たちを2,300メートル以上の標高、イボン・アズールまで導きました。この高山の環境の中で、山歩きはまた祈りと出会いの機会となりました。時としてきつい身体的努力が兄弟的支え合いの精神で体験されました：各自は、自分の仲間の困難さやリズムに注意を払いながら、他の人たちと共に進みました。景観の美しさと山の静けさは、観想と祈りのための恵まれた環境をこのグループにもたらしめました。また巡礼者たちはピレネー山脈の標高約1,160メートル地点にあるエスタイン湖も見つけました。



スペインからフランスへ

7月30日夜、巡礼者たちはフランス、ルズ・サン・ソーヴールの2番目のキャンプ地に到着しました。溪谷や土地が変わっても、巡礼のダイナミズムは中断することはありませんでした。逆に、その変化は、彼らがピレネー山脈の景観の中でこの歩行と兄弟愛の体験を継

続する助けとなりました。一つの重要な区間は、ピレネーの象徴的な一つの景観の中心にあるガヴァルニーに当てられました。また歩行は、ポー川に沿って、ルルドの方向へと続けました。マリアの町（ルルド）に向かう川に沿うことによって、この巡礼の旅に特定の方向が与えられました：すなわち、山々を横切った後、グループは徐々に彼らの巡礼が終結する場所に近づいたのです。

代表する国と共同体の多様性の中で、巡礼者たちは、兄弟愛が小さな気配りにおいても築かれることを理解しました：疲れている人を励ますこと、ゆっくり歩く人を待つこと、一緒に食事をする、一緒に祈ること、あるいは沈黙のうちに単純に景観の美しさを味わうこと。博物館と洞窟の訪問、そしてミサでアクセントがつけられたルルドでの短い滞在後、会員たちはその巡礼の旅を兄弟的昼食で終結しました。彼らは8月1日の午後、帰途に就きました。

福者ガッブ神父の足跡をたどる

8月6日から14日にかけて、5か国から集まった18名のマリア会員のグループは、福者ヤコブ・ガッブ神父が修練期を過ごし、彼が「生涯の最も幸せな年」を過ごしたオーストリアのマリアニストの霊性の家、上オーストリア州、グライジングホフで霊操を行いました。

この霊操はマリア会員、エミリオ・カルデナス神父の指導で行われ、彼は「福者ヤコブ・ガッブ神父の信仰の歩み」を展開しました。全ての黙想の出発点は、聖書のテキストと「生活の規則」の条文で啓発された福者ガッブの信仰の道のりでした。これが小さなグループであったという事実は、意思疎通を大いに助けました。グライジングホフの家と周りの環境が祈りと黙想の助けとなりました。典礼はフランス語とスペイン語で行われましたが、この家の他のゲスト、あるいは村の人たちが参加する時、幾つかのミサはドイツ語で行われました。



ウムルベルクの「雪の聖母」
礼拝堂の巡礼者たち

霊操の終わりに行われたワッテンズ（チロル）への巡礼は、福者ヤコブ・ガッブの生涯と信仰の歩みについて彼らの理解を深める助けとなりました。彼らはガッブ神父と関係の深い教会を訪れましたが、そこで彼らは福者ガッブ神父が洗礼を受けた洗礼盤、小さな記念物、そして彼が最後の説教を行い、その後、村を去るよう「求められた」その説教壇を目にしました。また彼らは、ガッブ神父が記念されている町の博物館と彼の生家を訪れました。

ワッテンズから巡礼者たちは近くのウムルベルクに行きましたが、そこは、ガッブ神父がロアナ一家所有の「雪の聖母」と言われる小さな聖堂で幾度かミサを挙げたことがあるところです。巡礼者たちは、ガッブ神父が彼の叙階の日の最初のミサとオーストリアを去る前の最後のミサを挙

げたときの同じカリスを使ってそこでミサを捧げました。

8月13日の朝、巡礼者たちはナチス政権の恐怖の目撃者、近くのマウトハウゼン強制収容所を訪れました。午後に、オーストリア人、信徒マリアニスト共同体のメンバー、オーストリアのマリア会員、そして近隣地域の人たちの出席の下、ミサが総長によって執り行われました。ミサは福者ガップ神父に捧げられた記念碑から聖堂までの行列で始まりました。このミサの間に、修道者たちは誓願を更新しました。まとめて言うと、これは素晴らしい霊操で、エミリオ神父によって良く準備されていました。異なる国々から来たマリア会員との祈りとミーティング、そして自然の観想の素晴らしい体験でした。

全世界の行政単位と共同体が総会の考えをどのように実践しているかに関する他の一瞥

7月26日、日曜日、ケレンベルグ記念高校（メリバ管区）の40名の生徒と先生からなる巡礼団がヴィア・ラティーナ総本部を訪問しました。彼らにはマリアニストダニエル・グリフィン師とパトリック・ケイヒル士が同行していました。彼らの総本部への訪問は、イタリアの若い聖人たち、聖カルロ・アクティス、聖ピエル・ジョルジョ・フラッサーティ、そして福者キアラ・バダーノなどの足跡をたどるイタリア10日間巡礼の最後の訪問地でした。

教皇とアンジェラスを祈るために、朝、カステル・ガンドルフォを訪問し、聖カリストのカタコンブでのミサに与かった後、巡礼者たちはアンドレ神父とジェローム士から暖かく迎えられました。アンドレ神父が彼らを聖堂へ案内し、福者シャミナードの生涯について話しました。彼はまた創立者の聖遺物をもって彼らを祝福しました。ジェローム士は総本部と世界のマリアニスト家族の宣教活動について多くの質問に答えました。この訪問は軽食で締めくくられましたが、ジェラートの店に立ち寄ることもありました！



総本部聖堂にて

42 回世界マリアニスト祈りの日



今年、第42回世界マリアニスト祈りの日は2026年10月11日でした。この日、全世界のマリアニスト家族はキューバのピナール・デル・リオの同じ名前の聖地の「エル・コブレの慈しみの聖母」像の前で祈りのうちに集いました。私たちはこの国のマリアニスト家族メンバー全員、毎日、この地を訪れる巡礼者たち、そして9月8日にエル・コブレの慈しみの聖母の日を祝った人たちと共に祈りを捧げました。

発行物

ファステイーノ

尊者ファステイーノの列聖調査に関して出版された会報は3か国語で次のリンクを経て入手出来ます：

ファステイーノと共に [2026年9月](#)、[2026年10月](#)これを読み分かち合うよう要請します。

最近の総本部通信

- 訃報：10-14号
- 9月7日：世界マリアニスト祈りの日-2026年10月11日、全マリアニスト家族あてにマリアニスト家族世界評議会から3か国語で送付
- 9月12日：2027年マリアニスト連帯基金（MSF）とマリアニスト養成基金（MFF）、財務局長、ジェローム・バラキエマ士から3か国語で全行政単位責任者と財務補佐あて送付

総本部の日程

- 9月23日-10月18日：総長評議員会がフランス地区を訪問
- 10月22-23日：総長評議員会、サクロファーノ（ローマ）でのヨーロッパマリアニスト会議（CEM）に参加